

十六銀と東濃信金協定

地域産業活性化けん引

十六銀行(岐阜市神田町、村瀬幸雄頭取)と東濃信用金庫(多治見市本町、市原好二理事長)は7日、地方創生の包括連携協力の協定を結んだ。業態が異なる地銀と信金の協定は、全国で2例目。東濃地方できめ細かい地域支援に取り組む

同金庫と、県内や愛知県、海外にもネットワーク網のある同行が連携することで、地方創

生への取り組みを加速させる。東濃5市での2金融機関のシェアは預金、貸出金とも5割と高く、質の高いサービス提供をしている。協定は美濃焼のブラ

ンディング、リニア中央新幹線を生かした地域活性化、中心市街地活性化、観光振興、人材育成の5項目。多治見市新町の市産業文化センターで行われた締結式で、村瀬頭

取は「情報交換でも力が発揮できる地域。地域を活性化できれば」と語り、市原理事長は「協定が好事例となるよう、地域をけん引していきたい」と期待を込めた。



包括連携協力の協定を交わす村瀬幸雄十六銀行頭取(右)と市原好二東濃信用金庫理事長。多治見市新町、市産業文化センター